

作文の部 高校生の部



建設業なんて

愛知県立半田工業高等学校 建築科 3年
新美吉基

建設業なんて「きつい」「汚い」「危険」と言われ、この「3K」が世間に強い印象を与えています。確かに夏は倒れてしまいそうな猛暑の中を作業していたり、冬には手足が凍ってしまいそうな寒さの中で作業をしています。また、ホコリなども気にすることなく、雨の中で泥などで汚れる事も多々あります。高所での作業や建設機械などは、誤った使い方をすると命を落としたり怪我をしたりしてしまいます。なのでこのイメージを完全に拭い去ることはできないと思います。ですが、私はむしろこの「3K」の先に建設業の魅力があるのではないかと思います。

私は現在半田工業高校で建築について学んでいます。私がこの高校で建築を学ぼうと思ったのは、昔から家などの建築物を見るのが好きだったからです。外観のキレイさや、無駄のないデザインや部屋の配置、個性的で自由な建築物を見るのが好きだったという単純な理由でした。建築業についての知識は、父親が建築関係の仕事に就いていますが、ほとんど無く単純に深い興味を持って入学を決意しました。

高校に入学し建築について学んでいくにつれて、実際に「きつい」「汚い」「危険」というイメージを持っていた私でも、小さな部材や部品、多くの技術を駆使して一つ大きな建築物を完成させるこの業界に魅力を感じました。

高校生活では、たくさんの建築についての知識を得ることができました。自分で家を設計することや、荷重などの複雑で細やかな計算をすること、設計した家を図面に描く事、実際にものづくりを体験したり見たりなど建築といってもたくさんの道があることを知りました。この様々な経験の中で最も衝撃的に感じた事は、高架橋の現場見学でした。国土交通省からの発注ということもあり、工事関係者や作業員の方が沢山いたり、多額のお金が使われていました。それぞれの業種の職人さんが集まり、少しずつでも連日作業を続け何も無かった場所から

一つの大きなモノを造る所に人間の団結力を感じ、この世界にとっても魅力を感じました。その現場では、現場監督さんから詳しく説明を聞き、毎日何気なく使っている道路や橋など当たり前だったモノのほとんどが建設業の力だった事を初めて気付きました。そして、この仕事の重要さが身に染みるほど理解しました。「建設業は縁の下の力持ちなんだよ」この言葉を今ではとても実感しています。日常ではあまり大きく取り上げられることはありませんが、東日本大震災時、破堤した堤防や段差のできた道路を二十四時間体制で修復工事を行い、その結果見事に短時間で工事は完了し、自衛隊による本格的な救助活動が可能になったそうです。しかし、震災で建設業が果たしてきた役割は、世間からも、マスメディアからもあまり認識されておらず、また評価もあまり受けていないと言われています。実際に私もこの震災についての事実は調べるまで知らず、非常時でも献身的に活動している事を知りとても素晴らしい事だと思いました。

そして特に建設業において魅力的に思えたことは「地図に残る」と言うことです。橋やダム、住宅などは数十年数百年の間地図に残ります。そしてその間に沢山の人の命や社会の役に立つ事ができます。社会の中でも積極的に汚れたり、体を動かす事により日常生活に必要な不可欠なモノを造り出し、そしてよりよいモノにするため整備し進化し続けるのが建設業です。

私はこの作文を書くに当たって、沢山の事を調べました。それは全て驚く事ばかりでした。世間にも建築業の事を少しでも知って貰うだけでイメージは百八十度が変わると思います。

建設業は「なんて」素晴らしい仕事なんだと。